

犠牲

知っておきたいキリスト教のことば（48）

犠牲という考え方とは、旧約聖書の祭儀規定の中によくみられます。レビ記には、焼き尽くす献げ物や和解の献げ物、贖罪の献げ物といったいにえの献げ方が出てきます。このときに「犠牲」として献げられるのが、牛や羊などの動物です。

また旧約聖書には、神さまがアブラハムに息子イサクをささげさせようとする物語（創世記22章）も描かれます。神さまの怒りをしずめ、また神さまとの関係を修復するために、「犠牲」をささげてきたのです。

新約聖書（新共同訳）では、この「犠牲」という言葉は「いけにえ」と訳されています。イエス様はこの犠牲の制度自体には何も言及されていません。しかし現在のキリスト教では、動物をいけにえにしたりはしません。

それは、イエス様によって立てられた新しい契約によって、旧約の犠牲の規定は不要になったと考えられているからです。特にパウロは、ユダヤ教でおこなわれている祭儀としての犠牲と、イエス様の十字架とを重ね合わせて伝えていきました。

さらにパウロはイザヤ書53章の苦難のしもべの姿をイエス様と結び合わせることによって、イエス様はわたしたちの罪の贖いのために十字架につけられ、わたしたちのために「犠牲」となられたのだと教えているのです。

そしてイエス様に倣うわたしたちには、「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」（ロマ12:1）と促します。わたしたちの信仰生活には、「犠牲」が密接にかかわっているのです。

「神さま、どうぞわたしを用いてください」、その祈りを神さまは待っておられるのではないでしょうか。

次回は「奇跡」です。お楽しみに。

